

東久留米市立第六小学校 第5学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<p>◇全国学力・学習状況調査(国語)から「書く力」 〔正答率R3:58.3% R4:57.7% R5:28.3% R6:79.8%〕</p> <p>①事実と感想、意見との区別を明確にして、自分の考えを書く。</p> <p>②根拠や結果、判断理由を基に自分の考えを書く。</p> <p>③他者の意見や考えを基に自分の考えを書く、他者の意見や考えから自分の考えを書き直す。</p> <p>④自分の考えが伝わるよう、必要な情報を取り出して書く。</p> <p>◇複数の資料を読み取って比較することや、読み取ったことを基に自分の考えを表現することに課題が見られる児童が25%いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを明確に表現するために、構成メモ(考えたこと・思ったことなど)を活用して内容を整理してから書かせる指導をする。 →月に1回以上の作文指導から見取る。(目標値:考えを整理して書ける児童80%以上) それぞれの資料の内容を端的にまとめる活動を重ね、共通点や相違点を表にまとめる活動を経験させる。 →説明的文章や文学的文章の学習で、文章を端的にまとめて自分の考えを表現できる。(目標値:80%以上の児童)
算数	<p>◇全国学力・学習状況調査(国語)から「書く力」 〔正答率R3:58.3% R4:57.7% R5:28.3% R6:79.8%〕</p> <p>②根拠や結果、判断理由を基に自分の考えを書く。</p> <p>③他者の意見や考えを基に自分の考えを書く、他者の意見や考えから自分の考えを書き直す。</p> <p>④自分の考えが伝わるよう、必要な情報を取り出して書く。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査(算数)学力調査から「変化と関係〔正答率62.8%〕、データの活用〔正答率63.9%〕」</p> <p>◇東京ベーシックドリルから学習の定着率(正答率)の二極化(正答率8割以上30%、正答率2割未満13%)</p> <p>◇問題場面の理解が十分でないため、立式できなかつたり、自分の立てた式に自信をもてなかつたりすることに課題が見られる児童が25%いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間、既習事項を根拠に自分の考えを書く時間を確保する。 どのように立式したのかを自分の言葉で説明させる。 →学習ノートや発表の内容から見取る。 (目標値:80%以上の児童) 日常生活の問題を解決するために、場面を解釈して数量の関係を捉え、式を用いることができるようにする指導などを多く取り入れて数量感覚を養う。図に表して考える機会を多くつくる。 →ワークテストやEライブラリ確認テストから見取る。 (目標値:正答率75%以上)
理科	<p>◇全国学力・学習状況調査(算数)学力調査から「変化と関係〔正答率62.8%〕、データの活用〔正答率63.9%〕」</p> <p>◇全国学力・学習状況調査(国語)から「書く力」 〔正答率R3:58.3% R4:57.7% R5:28.3% R6:79.8%〕</p> <p>③他者の意見や考えを基に自分の考えを書く、他者の意見や考えから自分の考えを書き直す。</p> <p>④自分の考えが伝わるよう、必要な情報を取り出して書く。</p> <p>◇実験や観察において、結果から分かることを考察することや、その内容を表現することに課題が見られる児童が40%いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実験、観察の目的に沿った考察や結論の書き方の指導を学習計画に位置付け、時間を確保しながら自力で考察や結論を書かせるようにする。また、話し合い活動を通して、友達の考えを聞き、自分の考えを広げ、深める機会を意図的に作る。 →考察や結論について自分の考えを文章で表現することができる。(目標値:80%以上の児童) 児童自らの力で、問題文を作成し、周りの友達と出し合えるように時間を確保して、考えや学びを深める機会を意図的に作る。(各時間1.2分程度) →学習ノートやグループでの話し合いの内容から見取る。 (目標値:80%以上の児童)
特別の教科	<p>◇全国学力・学習状況調査(国語)から「書く力」 〔正答率R3:58.3% R4:57.7% R5:28.3% R6:79.8%〕</p> <p>◇多数派の考えではない場合に、自分の意見に自信がもてない児童が50%いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の教材提示や発問内容、授業展開を工夫し、自分事として考えられるよう、自分の考えを書く時間を必ず設定する。 特に、葛藤や、分かっているけれどできないことなど、自分事として考えられるような発問の工夫をする。 →ワークシートから見取る。(目標値:自分の考えを書ける児童90%以上) 発問を工夫し、考える時間を設けたり、友達の意見を参考にできるようにペアやグループ交流を取り入れ、互いの意見を共有し自分の意見に自信をもてるようにする。 →授業でペアやグループ、全体で自分の考えを発言できる。 (目標値:80%以上の児童)